

ボランティアネット通信

2019年版

NPO法人
ボランティアネット

茨城県古河市水海三〇一九

Tel 0280-23-1441

090-3097-4640

Fax 0280-23-1446

さまざまなかつら災害」をこえ、人々とのつながりを願い、名称を
**「NPO法人
ボランティアネット」**
に変更させていただきます。

皆様の理解・ご支援
よろしくお願い申し上げま
す。

二〇一二年三月十一日
東日本大震災から八年が経過しました。これまで活動が継続したのは、皆様のご支援、ご協力の賜物と心より御礼申し上げます。

東日本大震災後も、茨城県常総市水害、熊本地震など災害において被災された方々の支援を続けて参りました。



東日本大震災からボランティア活動を継続していく中、災害の傷跡も癒されつつある今日、出遇ってきた人々は、今も必死に生きている「おひとり・おひとり」でした。

現地の状況も仮設住宅から復興住宅へ生活環境が変化しつつあります。新たなる方々と「NPO ユニティー形成」の場を創るお手伝いを、今後も続けて参ります。



八年目の石巻市

～写真を通じて～



2011年3月下旬。震災直後は、このような避難所での生活を送るしかなかった。



2019年4月中旬。復興住宅が立ち並び、中心には広大な公園も設置された。



上が2011年、下2枚が2019年の鹿妻ガソリンスタンド周辺。



二〇一二年三月十一日。
東日本大震災、発生。
同年三月三十日、NPO法人ボランティアネットの前身である有志の会が、石巻市での支援活動を開始。
それから八年。石巻市は大きく復興を遂げました。

二〇一九年四月、石巻市内の仮設住宅は全面的に閉鎖され、住民はすべて復興住宅もしくは各々が確保した住居へと移転しました。

仮設住宅の閉鎖は、震災後の復興の歴史において、大きな転換点ともいえる事件です。

二〇一二年五月十一日、第三回目の支援活動を行った場所です。

大きな転換点を迎えたこの八年目。そこで、かつて支援活動を行った場所がどうなっているのか、人が去った仮設住宅がどうなっているのか、訪ねてみました。

あの時は潮とヘドロと腐敗臭の漂う中での活動でしたが、八年後の現在は、潮の香りのみの場所でした。

巨大な防潮堤が建設され、大きな道路も作られていましたが、まだまだ閑散とした香りのみの場所でした。

ただ現在の日本の人口減少を考えると、このような場所は、日本各地にたくさんあるのかもしれません。

石巻市鹿妻のガソリンスタンド



河北総合センター 「ビッグバン」

二〇一一年六月十五日
の活動の場所です。

ここでは我々の炊き出しと同時に、支援業者による弁当の配食もあり、避難所と言つても様々だというふことを実感したところでした。

ここに入り口には、すこしだけくぼんだ部分があります。八年前のこの日、このくぼみに足を取られ、筆者はねんざをしました。翌日患部がはれあがり、大勢の人々に迷惑をかけた思い出があります。

「支援しに行って、支援されてくるとは…」

今では笑い話になつていますが、当時はかなりへこんだものでした。



思い出のくぼみを探したところ、八年前とかわらず、そこにありました。なぜか、「あつてくれてありがとう」と、不思議な気持ちになりました。



1段目の2枚は、2011年5月の鹿妻ガソリンスタンド。3段目の4枚は、2011年6月のビッグバン炊き出し。活動する向こう側で、弁当の配食をしているのが見える。4段目の3枚は、2019年4月のビッグバン。右下写真が、くぼみ跡。



2011年7月7日、駅前で「牛カルビ丼弁当」を配るメンバー

二〇一一年七月七日の活動で行ったところです。暑さ厳しい時期、スタミナをつけてもらおうという願いのもと、「牛カルビ丼弁当」を三百食作り、駅前広場で配布しました。

石巻市 渡波（わたのは）駅

当時は、鉄道の復旧もままならない無人駅で、周辺の家々に自宅避難者が頑張っているところでした。

現在は駅も整備され、花壇に花が植えられ、周辺には人々が相集う、そんな静かな町になっていました。

ただ、近所の小学校に立つお地蔵さまは、当時の様子を確かに伝えていました。



2019年4月の渡波駅。円形の花壇(水産高校生徒作)が見える

かなりの回数、活動した場所です。小中高の合同学舎として使われたため、子供向けの活動をするときは、必ずここでました。

桜吹雪が舞い散る坂を上がり、わずかな学生が部活動にいそしんでいる中、「立ち入り禁止」のロープが張られた仮設住宅跡地は、ひとつそりとしだたたずまいでした。

北校飯野川校
仮設住宅 跡地



渡波小のお地蔵さま。校庭で亡くなった幼児(6歳)をしのび、両親が寄贈したものと言われている。



左は2019年4月、右が2011年7月。学校隣接の仮設住宅だったため、支援活動には大勢の児童が来てくれていた。

二〇一二年十一月、ここで活動した時にみあげた大空の虹は、私たちの活動の希望の原点でした。



三反走（さんだんばしり）
仮設住宅跡地

ここは、共に活動することができ多かった「水浜地区」の方々が一時入居しており、そのご縁で幾度か活動させていただきました。

ただ面白いことに一匹の猫がまだ住んでおりまして、私を見つけると、のそのそと近寄ってきて、ニヤアニヤアと声をあげてすり寄ってきたのです。



多分、近隣の住民や J.A. 職員、私のように様子を見に来たニンゲンから食料を得ているのでしよう。

猫の団太さとたくましさに、ほっこりしつつも安心したひと時でした。

変わったからこそ見えてくる「変わらなかつたもの」が、少しずつですが見えてきた、そんな気になりました。

（文責・大内崇久）

ここも「立ち入り禁止」のロープが張られていました。人の気配も全くありません。

エサも何も持っていないため、「ごめんね、何もあげられないんだ」と、合掌して帰ろうとしたところ、露骨に顔をしかめ、 Pruittと引き返し、居心地のよさそうな場所にでんと寝ころんだのです。

みると、年齢のわりに肉付きもよい様子。八年という歳月は、人も、町も、生活も、大きく変えてしまいます。

八年という歳月は、人も、町も、生活も、大きく変えてしまいました。長い年月をかけて変わっていましたもの。そしてどんな時でも、かつて変わらないもの



その中でも、わずかにみられる住民の自動車と、おおきく枝を広げる源平桜に、すこしだけ心が安らぎました。

福岡町の夜の森地区を視察してまいりました。除染が進み、町内各地にあるモニタリングポストの数値は、安全な数値を示していました。

しかし、人の気配がない学校や児童館、「帰宅困難区域」の掲示板が建つ街道、「ソーラータウン分譲中」の文字が寒々しく映る、真新しい看板。

厳しい現実が、そこにありました。

福島の現在

二〇一九年四月、福島県富岡町の夜の森地区を視察してまいりました。



炊き出し体験実施！！
「いつ起くるかわからない災害に備えて日頃からの訓練が必要だ！」

うきのわ
復興夏まつり
「災害に備えよう！」

7月22日(日) 9時～
場所：光照寺
(宇城市豊野町糸石2249)
連絡先：090-4865-8476(糸山)

子ども食堂！！
カレーを作ろう！

そうめん流し
竹箸つくり！

かき氷・綿菓子
焼き鳥・生ビール等も！

チャリティバザー

作ってみよう「サバ飯」
アルミ缶でごはんが炊けるよ！自由研究にも

地域婦人会と女性消防団もご協力されます。

フイッシュバーガー もやってくる！！
これは、是非 食べてもらいたい！！

熊本の現在

二〇一八年七月、熊本県宇城市豊野町 光照寺にて。

被災したお寺と境内地を会場に行われた夏祭りに参加しました。

カレーの炊き出しをお手伝いしましたが、「ごはんはビール缶を器にする」「調理の燃料は、牛乳パックを細く切って燃やす」など、災害時を

想定した調理方法も伝えられていきました。
2度の大きな地震にみまわれ、助け合って災害を乗りきった地域の人々と、夏祭りを通してお互いの無事を確認し合い、これから之力とされていました。

夏休みに入り、子供たちも大勢参加し、のびのびと遊んでいた姿も印象的でした。

(文責・三池眞弓)

NPO法人 災害ボランティアネット 収支報告書

(期間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

前年度繰越金	¥3,567,570
収入総額	¥1,755,158
支出総額	¥1,561,450
差引残高	¥3,761,278

次年度へ繰越

正会員・賛助会員・寄付者

(敬称略・順不同)

(期間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

秋津 秀樹、葦原 由美子、阿弥陀寺(長須)、荒川 保、飯田 千恵子、飯塚 久江、池田 幸裕、石川 真樹、伊藤 賢、今泉 温資、今泉 徳夫、岩城 芳文、岩津 栄一、岩松 知也、因宗寺 柏女有教、梅溪 得文、雲国寺、永願寺 田口 壽人、円鏡寺、大塚 展彦、加藤 誠(雲国寺)、木下 彰子、桑原 正信、渓雲寺、光照寺 池田孝郎、光照寺 土肥真、高徳寺、光明寺 小林尚樹、光明寺 三浦 大悟、古賀 千代子、古賀 美津子、小島 真知子、小島 森一、孤野 やよい、狛一、西岸寺 友松 雅英、西念寺、西蓮寺 白山 勝久、笹本 伸一、佐伯 朋子、澤田 恵子、塙塚力也、正應寺 佐々木誠正、正覚寺 山吹照久、淨願寺、勝願寺 井上証、乗願寺 鈴木友好、正行寺、淨教寺 鈴木 量応、常照寺、淨眞寺 前田 義朗、淨善寺、正蔵寺、聖徳寺、称念寺、常福寺 八田裕生、真行寺、真照寺、真福寺 秦 康昭、Studio-Pop hair 横山達也、専行寺(平松 正信)、専勝寺 碧海 宏、(財)全日本仏教会、宗泉寺 担保 立子、宗念寺、相馬 法道、存明寺 酒井 義一、諦聴寺、託法寺、多田 依子、(有)谷駒 梁河綾子、玉川喜美江、玉寄富仁枝、長願寺、聰法寺、通覚寺、塚寄洋子、東京四組 佐々木誠信、東弘寺、同朋ネット、徳蔵寺、富山教務所、中村 由美子、並木会館、延岡 潤照、梅寿 光殊、橋本 はる子、秦 秀人、坂東 性悦、東出 睦治、樋崎 菜々、深栖 將穂、藤津 裕子、法雲寺、法善寺、堀 秀隆、本誓寺、本多 雅人、本伝寺 渥上 知明、増田 宣夫、松野 祐、松本 きみ子、光林 忠明、宮地 修、妙安寺(一ノ谷)、妙安寺(みむら)、明超寺、妙徳寺、梁河 文昌、山田 和江、山名 広隆、山中 えりか、山中 なつ、唯信寺、佑浩寺、横田 洋、吉田 幸代、吉弘 祐子、了因寺 吉岡 康裕、了覚寺 加藤 慈子、蓮慶寺、渡辺 ウメ子、渡辺 久美子



皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。
尚、今後も支援活動を継続していきますので、
引き続きお力添えをよろしくお願ひ申し上げます

今後の活動について

ご協力のお願い

編集後記

「終の棲家（ついのすみか）」
復興住宅に入居した方が
つぶやいた一言です。

「仮設住宅」は、あくま
でも「仮の宿」でした。

しかし「復興住宅」は、半
永久的な住居として設計さ
れております。

当『会報』でご報告させてい
ただきます。皆様のご協力
を、よろしくお願ひ申し上げ
ます。

「NPO法人 ボランティア
ネット」は、現在も支援活動
を続けており、また活動を支
えてくださる、「正会員」賛
助会員」を募集しております。

また、ご寄付も随時受け付
けております。

「ゆうちょ銀行」での寄付を
希望される方は、ご連絡くだ
されば「振込用紙」を送付い
たします。

「銀行振り込み」の場合は、
左記の口座への振り込みをお
願いします。

石巻市の各地域を、あ
らためて尋ねてみると
とで、様々な再発見があ
りました。

支援活動に行くと、た
だひたすら「しなければ
ならない」ことで手一杯
でしたが、落ち着いて街
を眺めることで、この八
年間を振り返ることが
できました。

三反走のずうずうし
いネコが、来る人々に元
気と安心をもたらして
くれることを、今でも願
っています。

「オレはここで、しつか
り生きているからニヤ」
と。

（文責・大内崇久）

ボランティアネットとし

ては、この「地に足の着い
たコミュニティ」である
復興住宅自治組織に協力す
する形で、今後の活動を計



みずほ銀行 古賀支店 (279)
普通 1253564
口座名…

特定非営利活動法人
災害ボランティアネット